

ユネスコ無形文化遺産「能楽(能・狂言)」

狂言に触れてみませんか



日本の代表的な伝統芸能である「能」と「狂言」は、両者を合わせて「能楽」という名称で呼ばれ、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。この度、子どもと大人が一緒になって狂言に触れるきっかけにしてみよう、9月30日(日)に国際文化会館で、「親子で狂言に親しもう」と題して、狂言の公演が開催されます。普段なかなか接する機会が少ない伝統文化を体験してみたいかがでしょうか。

狂言は、人間ならではのおかしさや喜怒哀楽を庶民的に描いた日本最古の会話劇で、室町時代当時の言葉遣いで演じられます。主役の「主人・大名」や、その使用人の「太郎冠者・次郎冠者」をはじめ、さまざまな登場人物が織り成す物語が展開されます。

観覧者を募集します

日時 9月30日(日) 午後1時30分
開演(開場は午後1時)
会場 国際文化会館大ホール
演目 「棒しばり」「清水」
出演 大蔵千太郎さんほか
定員 1,000人(先着順)

演目

「棒しばり」のあらすじ

外出する主人は、使用人(太郎冠者・次郎冠者)に留守を言いつけます。しかし、二人は留守番中にいつも酒を盗み飲んでしまうので、主人は、太郎冠者を後ろ手に縛り上げ、次郎冠者の両手を長い棒にくくり付けてしまいます。それでも酒を飲みたい二人は、酒蔵の戸を開け…。

「清水」のあらすじ

茶道の準備のため、名水として知られる野中の清水へ水をくみに行くよう主人に命じられた太郎冠者は、清水に鬼が出たとうそをついて水をくまずに戻ってきます。不審に思った主人が清水まで行ってみると、たしかに鬼が出ました。しかし、実は太郎冠者が先回りして鬼の面をつけていたのです。一度は主人も恐れて引き返しますが…。

郵便往復はがき

返信先住所

返信先の氏名

①代表者の氏名(ふりがな)
②代表者の住所
③代表者の電話番号
④参加者の人数
大人(高校生以上) 人
子ども(中学生以下) 人
※1通につき3人まで申し込みが可能です

郵便往復はがき

往信

2868585

成田市花崎町760
成田市教育委員会生涯学習課内
印旛地区ユネスコ協会
連盟事務局行

※何も記入しないでください

観覧費 無料
申し込み方法 往復はがきに必要事項を書いて、9月10日(月)(当日消印有効)までに、印旛地区ユネスコ協会連盟事務局
(〒286-8585 花崎町760)へ

※くわしくは日本伝統芸術文化協会(☎0428-76-3070)、同協会ホームページ(<http://www.t-net.ne.jp/jtaa/>)、印旛地区ユネスコ協会連盟事務局(生涯学習課・☎20-15803)へ。